

presents

YATTO SOCCER CLINIC

in HAMAMATSU



実施報告書

ONE
CLIP

開催
趣旨

サッカーは 難しくくて奥深い だから 面白い。

現役最後の時間をジュビロ磐田でプレーした遠藤保仁が、
クラブのホームタウンである浜松市にて、
「サッカーを通して、浜松市のサッカー少年少女と交流できないか」
という発想のもと、企画いたしました。

遠藤本人が直接参加者たちと触れ合うことで、
より強く、“サッカーの魅力”を伝えられると考えています。

遠藤をはじめとしたトッププレーヤーたちの言葉や姿を通じ、
参加した少年少女がサッカー選手として成長するキッカケを作る事で、
お世話になった地域への恩返しに繋がればと考えています。

実施概要



- 主催 : ONE CLIP 株式会社
- 協力 : 常葉大学 浜松キャンパス
- 後援 : 静岡県サッカー協会西部支部
- 発起人 : 遠藤保仁 (ガンバ大阪コーチ)
- ゲスト : 徳重健太 (愛媛FC)
東口順昭 (ガンバ大阪)
大森晃太郎 (スパンブリーFC)
藤原健介 (栃木SC)
- 対象 : 浜松市在住のサッカー少年少女 合計約140名
- 会場 : 常葉大学 有玉グラウンド
- 日程 : 2025年12月15日(月)
- 内容 : 18:00～開会式
18:30～ウォーミングアップ、トレーニング開始
20:00～質疑応答、表彰式、閉会式
- 参加費 : 無料



写真：開会式にて各コーチから参加者へメッセージが送られる

サッカークリニックに先立ち開催趣旨や協賛企業の皆さまを紹介させていただきました。

定員120名に対し、今年も応募総数は約1000名を超える応募があり、非常に多くのサッカー少年少女が参加したいと思うイベントとなりました。
(最終参加人数約140名)

「短い時間だが、楽しく学んでいこう！」

約2時間のトレーニングを実りのある時間とする為、遠藤を筆頭に、豪華な現役プロ選手をコーチ陣として迎えました。

開会式では遠藤から、「短い時間ですが、ポジションの異なる各コーチに、それぞれの専門分野について質問しながら、楽しんで取り組んでいきましょう」というメッセージが送られました。

豪華コーチ陣による トレーニング指導

今年は参加対象を小学4〜6年生に設定、例年より高度なトレーニングを実施しました。

ウォーミングアップからトレーニングまで、「観る・考える」といった遠藤のプレーの真骨頂とも言える要素を随所に取り入れ、運動量の多いプログラムを実施しました。

また、各コーチがそれぞれの専門分野を活かし、さまざまな場面での確なアドバイスをを行うなど、本イベントならではの質の高い指導となりました。



写真：遠藤からも参加者へエールを送る

ゲスト
コーチ

東口 順昭



「自分がキーパーの目線で、どんなシチュートが効果的か、GKはどんな選択をされると嫌なのかをアドバイスして、参加者にとって新しい発見や気づきを与えられたら嬉しいです。」

徳重 健太



「1日で急に上手くなることは難しいと思うので、今日は参加者と交流していく中でヒントを伝えて、一緒に楽しめたらと思います。その中で参加者自身が成長に繋がる何かを感じて帰ってもらえたら嬉しいです。」

ゲスト
コーチ

大森晃太郎



「寒さを吹き飛ばすくらい元気に、周りを見て、たくさんコミュニケーションをとって、声を出して全力でやっていきましょう！」

「僕も子どもどもの時はこうやってサッカー教室に参加していたので、みんなもプロになれることを信じて練習してほしいです。」

藤原健介



頭も身体もフル稼働させる基礎練習

J1リーグと日本代表で最多出場を誇る遠藤保仁が得意とする、「止める・蹴る」を軸に、そこへ「考える」という要素も加え、ウォーミングアップから頭と身体をフル稼働させるトレーニングを行いました。また、考える為には「見る」のではなく、「観る」ことが必要であり重要です。遠藤コーチはいつ、何を観ているのか、練習を通じて子どもたちに学んでもらいました。

ウォーミングアップでは、「ボール集めゲーム」というトレーニングを実施しました。自チーム・相手チーム・ボールの行方・相手の動き方を観て判断し、行動することを求める、ゲーム感覚のトレーニングです。その後は、動きながらのパス練習を行い、色分けされた子どもたちが自分とは異なる色の選手へパスを出さなければならぬというルールを設定しました。

常に周囲を観て判断する必要がある内容となっており、コーチたちも実際にこどもたちとパス交換をしながらアドバイスを送っていました。



写真：アイスブレイクの「ボール集めゲーム」中に子供たちを集めて動き方のアドバイスを送る遠藤

止めて、蹴る 考えて、走る



写真：プロ選手たちが参加者とパス交換をしながら、「プレー」と「言葉」両方で指導を行なった

シュートのことは ゴールキーパーに聞け！



写真：自分の順番を待っている参加者にも積極的に声をかけ、アドバイスを送る遠藤

シュートの事は誰より GKが知っている！

パス&コントロールの後は、3対2+GKというオフエンスが優位な状況を設定した実戦的なトレーニングを実施しました。

多くのシュートチャンスが生まれる中、徳重・東口から「GKがどこにシュートを打たれるのが嫌なのか」「どのような状況でパスを選択されると対応が難しいか」など、GK目線ならではの具体的なアドバイスが送られました。

また、シュートまでの過程では、先に学んだ「観て判断する」意識を活かしながら進行。プロが実際にGKを務めたり、子どもたちにも混じってパス出しを行ったりすることで、プロのプレーを間近で体感できる環境を作りつつ個々の選手に対して積極的に声かけを行いました。



写真：日本代表経験のある東口に向かって参加者がシュートを打つ様子

大人も子どもも、 サッカーを純粹に楽しむ =ファンサッカー



トレーニングの最後は遠藤、徳重、東口、大森、藤原とスポンサーの皆様で「ヤットチーム」を結成し、グループ分けした子供チームと試合を行いました。

Jリーグトッププレイヤーのプレーを間近に感じながら、トレーニングで学んだことを実践の中で活かし、大人相手にも果敢に挑んでいく子どもたちの姿を見ることが出来ました。

学びの中にも笑顔溢れる瞬間がたくさんあり、「サッカーは楽しい」と子どもだけでなく、大人も一緒に改めて感じることでできる時間となりました。

「感謝の気持ちを 忘れずに」



写真：閉会式でプロになる上で大切なことを伝える遠藤

質疑応答と閉会式

イベントの最後には、子どもたちからの質問に対し、遠藤をはじめとするコーチ陣が直接答える質疑応答の時間を設けました。

「モチベーションを保つ秘訣は何ですか？」といったメンタル面に関する深い質問もあり、コーチたちは一つひとつの質問に対して、実体験を交えながら丁寧に回答していました。そのやり取りは、質問をした子どもたちだけでなく、周囲で聞いていた他の参加者や保護者の皆さまにとっても、非常に学びの多い時間となりました。

閉会式の最後には遠藤から「家族、コーチへの感謝の気持ちを忘れずに、チームメイトや友達を大切に、これからもプロサッカー選手を目指して頑張ってください」とメッセージが送られ、保護者の皆さまにも観覧への感謝が伝えられました。

その後は、今後の活躍への期待を込め、コーチ陣はハイタッチを交わしながら、参加者を見送りました。



写真：ハイタッチをして参加者を見送るコーチ陣

第3回 YATTO SOCCER CLINICでは、MEP (Most Enjoyable Player)2名と MVP (Most Valuable Player)1名を全コーチで検討し選出、表彰しました。

MEP 2名



MEPとして、最もサッカーを楽しんだ選手に選ばれた2名には、アンブロ社製のリュックが贈られ、遠藤と2ショットで記念撮影を行いました。

MVP 1名

最優秀選手賞である MVPに選出された1名にはアンブロ社製の遠藤と同じモデルのスパイクが贈呈され、遠藤と2ショットで記念撮影を行いました。



ギャラリー ①



ギャラリー ②



ギャラリー ③



ギャラリー ④

